

ITP パートナー機関カイロ大学 (HP 用)

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科および東南アジア研究所は、カイロ大学アジア研究所および政経学部と 2008 年 2 月に学術交流協定 (MOU) を締結し、双方向の交流を推進しています。

アジア研究所は、カイロ大学政経学部内に 1994 年に設置された研究所で、日本研究のほか、マレーシア研究、韓国研究などを行っています。マレーシア研究に関しては、現地の大学と提携しており、研究所内にマレーシア研究コースを設けて、エジプト人学生・マレー人学生対して集中講義を提供するなど、活発な活動を行っています。日本研究に関しても、京都大学の協力のもと、同様のコースを設ける準備が進行中です。

他方、京都大学からは、現在進行中の ITP 事業により、毎年インプット・レベルおよびアウトプット・レベルの若手研究者のカイロ大学への派遣を計画しており、2007 年度にはすでにインプット・レベルの学生が 1 名、現地研修を行っています。

以下、インプット・レベルおよびアウトプット・レベルに分けて、ややくわしく説明します。

1. インプット・レベル派遣

1) アラビア語研修コースについて

初級アラビア語研修については、パートナー機関から複数の語学学校の推薦・紹介を受け、これに基づき、ディーワーン語学学校他で実施することとしました。同校の本部はカイロ市郊外にありますが、パートナー機関をはじめとする研究機関に近いガーデン・シティ校を選択しています。同校のプログラムは、通常プログラムと特別プログラムがありますが、派遣者に応じて、適宜これらを組み合わせて研修プログラムを組むことにしています。通常プログラムはアラビア語の文法事項に沿って講義が組み立てられており、本当の初心者にとっては有用ですが、ある程度のアラビア語能力があり、各自の専門に特化した研修を受けたい派遣者にとっては、特別プログラムが役に立ちます。研修は個人指導で行われ、週 5 日、1 日 2 時間半のコースが組まれています。プログラムの詳細については、資料が ITP 事務局にありますので、参照してください。(もしくは、PDF ファイルで入れられるなら、「添付資料を参照してください。」)

ディーワーン語学学校は、きめの細かいケアを特徴としており、到着時の空港出迎えにはじまり、宿舎や携帯電話の斡旋などもしてくれ、初めてエジプトを訪れる研究者に大いに助けとなるのが期待できます。

なお、インプット・レベル派遣の学生は、希望すればカイロ大学政経学部およびアジア研究所の図書室を利用することが可能です。

2) 研修料について

ITP 事務室に詳細な資料があります。

3) 宿舎について

上述のように、語学学校による斡旋が受けられ、研究機関が集まる市内中心部に宿舎を見つけることが可能です。

4) 滞在中のコンタクト・パーソンについて

パートナー機関においては、Gaber Said Awad カイロ大学アジア研究所長および Mona Mustafa Al-Baradei 同大学政治経済学部長。またディーワーン語学学校においては、Gamal Mustafa 校長。

2. アウトプット・レベル

1) 研修態勢について

上述の MOU に基づき、派遣研究者には、カイロ大学アジア研究所における研修の便宜が与えられることになっています。具体的には、同研究所および政経学部の図書室等の施設を利用することができ、パートナー機関に在籍する研究者と意見交換する機会も得られます。また、派遣研究者の専門に近い研究者が同研究所に見当たらない場合は、東洋学研究所その他、カイロ大学のしかるべき機関の研究者に紹介を受ける態勢をとることになっています。

研修の時期は、学年の切れ目にあたる 6 月中旬から 9 月中旬とラマダーン月を避けることが好ましいとのことです。

2) 研修料について

MOU に基づき免除。派遣研究者は研修料を支払うことなく、上述の便宜を受けることができる。

3) 宿舎について

アウトプット・レベルの派遣研究者はすでにアラビア語の十分な運用能力を有し、多くの場合はアラブ世界の滞在経験をすでに持っていますので、派遣者自身が本人にふさわしい宿舎を見つけることを求めています。ただし、必要に応じて、パートナー機関の協力を得ることが期待できます。

4) 滞在中のコンタクト・パーソンについて

パートナー機関の Gaber Said Awad カイロ大学アジア研究所長および Mona Mustafa Al-Baradei 同大学政治経済学部長。

3. 将来的な連携強化について

上述のように、今回 MOU を締結したことにより、教育・研究上の連携関係を確立することができました。

これまで、カイロ大学アジア研究所および政治経済学部は、アジア各地に関する研究を推進してきました。東南アジア研究はこれらの中で進んでいる領域で、京都大学東南アジア研究所およびアジア・アフリカ地域研究研究科との連携強化が強く期待できます。カイロ大学アジア研究所は、これまでに日本に関する研究書を 6 冊刊行していますが、まだ日本プロパーの専門家はいないことから、この分野の増強をも希望しており、この点でも京都大学は協力できると考えています。

具体的な連携としては、博士課程の学生を含む若手研究者の交換や、英語・アラビア語による国際シンポジウムの開催などを予定しています。



カイロ大学構内



カイロ大学政経学部図書室の光景



カイロ大学アジア研究所にて、Gaber Awad 所長と東長京都大学准教授 (ITP 主担当教員)。